

すいたレジ袋削減・マイバッグ推進協議会（第15回）会議録（概要）

- 1 開催日時 平成25年（2013年）11月19日（火） 14時00分～15時40分
- 2 開催場所 吹田市役所高層棟4階特別会議室
- 3 出席者名簿 別紙「出席者一覧」のとおり
- 4 配付資料 資料1 平成25年度 第2回すいたマイバッグキャンペーン実施実績
資料2 北摂地域共通キャンペーン実施について
資料3 マイバッグ持参率の現状について
資料4 協定更新に向けての事業者意見集約
資料5 吹田市におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定内容
- 5 会議要旨 以下、「会議要旨」のとおり
 - 1 協議会参加団体の取組みについて
 - 2 協定の更新について
 - 3 その他
 次回の開催候補日について

会長挨拶

株式会社 阪食 挨拶

- 1 協議会参加団体の取組みについて

【会長】 11月1日よりイオンさん、ダイエーさん、グルメシティさんがレジ袋無料配布中止をされた。それぞれの事業者さんよりご報告をお願いしたい。

【事業者A】 11月1日より全国で無料配布中止している。サラリーマン層から不便だという声は聞くが、ほとんど苦情はなかった。夕方から夜にかけては辞退される率が減少するが、慣れていただければ大丈夫だと思う。

【事業者B】 お客様のクレームは全くない。逆によくやってくれたというご意見はいただいた。レジ袋は1枚5円で販売している。1か月前より告知をし、マイバッグの無料配布も行った。マイバスケットは約1か月で205個販売。持参率は1～10日で71.5%、11～18日で76.7%、1～18日で73.8%。平日は76～81%、土日は69～72%。平日は持参率が高いが、土日では落ちる。

レジ袋を無料配布中止したからといってお客様は減っていない。売り上げに関しても落ちたということはない。

【事業者C】お客様から大きな声はなかったため受け入れられたと考えている。江坂地区に2店舗あるが、1～12日のデータでは、21.5%で推移していた店舗が65.1%。22.1%で推移していた店舗が67.5%となっている。

【会長】事業者Cさんレジ袋はいくらか。

【事業者C】大を5円、中を3円で販売している。

【会長】事業者Kさんは事務局から報告をお願いします。

【事務局】電話で聞き取りをした結果を報告させていただく。多くの方がマイバッグを持参しており、70%ほどの持参率になるのではないかと推察している。マイバッグを持参するのを忘れた方用に、ダンボール箱をこれまで以上に設置した。また、マイバッグを配布するキャンペーンを実施し、1000個配布した。お客様から、有料のレジ袋にロゴが入っており宣伝するのはいかなものかという声や、レジ袋が白色のためごみ袋として使用できないという声があった。

【会長】11月1日からレジ袋の無料配布を中止された事業者さんの報告を受けて、他の事業者さん、何かご意見ございませんか。事業者Dさんからお願いします。

【事業者D】イオンさんと同じグループであるが、当社は2円引き。先月は35%程度の持参率。

【事業者E】無料で配布していた時に比べて袋の素材は変更しているのか。

【事業者A】バイオマス素材に変更して、繰り返し使っただけのよう厚手のものにした。

【事業者E】お弁当を買われる方用の袋を用意しないといけないのか。

【事業者A】大きなお寿司パック等、商品の価値を損なうものについては無償で提供するものはある。

【事業者F】15日に明石市と無料配布中止の協定を締結した。マイバッグ等に入らない商品については無料でレジ袋をお渡ししている。

【事業者G】紙袋中心。リサイクルポイントを1袋につき10ポイント（10円）付与しており、持参率が約55%。有料化を打ち出すことで環境に対しての意識向上になるのかなと思いながら話を聞いていた。

【事業者H】関西中心に約100店。有料化しているのは10店舗。内容については、イオンさんと同じような基準でしている。社内で有料化について検討している最中。

【事業者I】兵庫県では有料化を実施していたが、大阪での実施は検討課題となっている。マイバッグ持参者にはエコシールを付与している。20店舗で、約20%。

【事業者J】お客様にご不便、ご迷惑をおかけしないようにレジ袋はお配りしている。

【会長】市民団体からご質問ございませんか。

【市民団体A】 お米のようにマイバッグに入らないものや、匂いのつくもの等については配慮していただけるとありがたい。

【会長】 無料配布中止になってどれくらいの方がレジ袋を買っているのか。

【事業者A】 20～30%の方が買われている。

【会長】 三者での協定の中で持参率目標値を60%としているが、イオンさん、ダイエーさん、グルメシティさんにはレジ袋の有料化を進めていただいたし、その他の事業者さんも目標値達成のため取り組んできてもらっている。

【市民団体B】 お店の商品を買うためにお客さんはそのお店に来られている。他店にお客さんを取られることはないということが証明されたのではないか。

先月、店舗でキャンペーンをさせていただいた際、お弁当を買われて、袋なしで持って帰られるお客さんの姿をみた。お客さんがどうしてもレジ袋をほしいと思っていな
いと思う。

【会長】 無料配布中止することによって意識が高まっていくのであればしていただければよい。協議会なので決して強制ではない。

【市民団体C】 事業者Aさんから、クレームはなかったという報告があったが、どうしてこちらの思いが通じたのか、お客様がどういう風に受け止められているのかを考えないといけない。

【会長】 この問題については、行政が一番考えないといけない問題。レジ袋をなぜ減らさないといけないのか広く知らしめる努力をしないといけない。市民団体もキャンペーンをしている。事業者もそれぞれの取組をしている。それぞれが成功するために市がバックアップしないといけない。次に市民団体Aさんより報告をお願いします。

【市民団体A】 **資料1**に基づき10月開催のマイバッグキャンペーンについて報告。「ゴミ袋として使用したいのでレジ袋をもらっている」とおっしゃる方がいたが、なぜレジ袋がいけないのかという説明を丁寧にさせていただいた。今後も行政と相談をしながらキャンペーンを続けていきたいと思っている。

【会長】 マイバッグの実施実績の中に、どのような目的で開催しているのかを織り込んでもらいたい。次に吹田市から報告をお願いします。

【吹田市】 **資料2**に基づき北摂地域共通キャンペーンについて説明。

【会長】 行政から北摂地域共通キャンペーンの説明がありました。なかなか今日決定するのは難しいと思う。事務局から調査票を送付してもらうので、回答してほしい。吹田市で実施するので、吹田の市民の参加がほしいと思う。皆さん協力してあげてください。次に、マイバッグ持参率の現状について事務局からお願いします。

【事務局】 **資料3**に基づきマイバッグ持参率の現状について報告。

2 協定の更新について

【会長】 次に協定の更新について事務局から報告をお願いします。

【事務局】 **資料4**協定更新に向けての事業者意見集約、**資料5**吹田市におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定内容について説明。

【会長】 業者さんの考える、持参率目標値にばらつきがある。目標値が80%であるが協定では60%に合わせるとはどういうことか。この集約からは協定書の中身をさぐれない。アンケートを取ることにについては聞いていなかったし、設問自体も分からない。**資料5**は現行の協定書か？

【事務局】 **資料5**は現行の協定書になる。目標値が80%というのは、事業者が独自に設定している目標値、60%は本市と協定を結ぶにあたり妥当と考えている目標値である。

【会長】 協定書は必要ですか。必要でないですか。協議会を立ち上げて協定を締結し更新してきた経緯があるなかで、今回その必要性があるということであるが、2年前に更新をした時と手順が変わっている。

【事業者A】 手段、方法が一緒ではないと統一の数値はなかなか難しいと感じている。

【市民団体D】 今回全体の平均が35.5%でしたが、無料配布中止をされたところの平均が上がると全体の平均が押し上げられ60%により近づくのではないか。

【会長】 この協議会に入っていない事業者もある。今は、協定書を続けて締結する必要があるか聞いている。行政は目標に達していないから、目標に達するまで協定を更新していきたいので議論してほしいと出してくるべき。

【市民団体A】 要ると思う。

【部長】 行政としては更新するのは当然ありきと考えているが、皆さんのご同意が必要であることや、目標値についてご議論いただきたくてあげさせていただいた。

【会長】 今まで行政が協議会を立ち上げて、協定を結んでほしいと言ってきたため、事業者、市民団体、行政で協定を結び、お互いに配慮しながらやってきた歴史がある。そこを大切にしながらやっていかなければいけないのではないか。今回は行政がそれを無視している。いつ更新をしてきたのか。

【事務局】 平成21年10月と平成24年4月に締結している。

【部長】 1回目、2回目ともに60%としていただいていた。

【会長】 協定書があるものとし、みんなで納得して目標値を設定してきた経過がある。アンケートをするなら協定書が必要であるのかないのかということも聞いた方がいい。

【部長】 更新を前提としてアンケートをさせていただいた。前回も前々回も議論になったところを調査した。

【会長】 先人たちが作りあげた形を無視している。なんとか持参率が上がるようにやってきた。協議会を立ち上げてやってきた経緯を大切にしなければならない。60%を

達成していないのに80%に変更することはありえない。これは行政がよく考えるべきこと。

【部長】わかりました。

【会長】次に進めるために、みなさんもう一度時間をください。2月の日程だけを決めさせてもらってよいか。それまでに集まってもらう必要があれば、集まっていただく。

2月24日（月）14時から吹田市役所特別会議室で開催することとなった。